

主要Q&A

<全社>

Q:2013年3月期第1四半期決算の概要は。

A:国内たばこ事業の震災影響の反動による販売数量の大幅増、海外たばこ事業のプライシング、GFB販売数量増加による単価上昇効果等によるたばこ事業のトップライン成長が牽引し、増収増益となりました。売上収益は対前年同期比17.2%増、為替一定ベースの調整後EBITDAは45.8%増、親会社の所有者に帰属する四半期利益は83.2%増となりました。通期見込の達成に対して堅調なスタートをきりました。

Q:2013年3月期通期見込は変更しないのか。

A:第1四半期決算実績については、通期見込に対して堅調なスタートとなりました。

海外たばこ事業の1-6月実績は、為替一定ベースのトップラインが通期見込に対して強含みに推移する一方で、為替は対ドル現地通貨安が想定以上に進行しています。今後、欧州景気動向や為替動向等を注視する必要があると考えています。また、国内たばこ事業、医薬事業及び食品事業については、通期見込に対して着実な進捗となっていることから、全社業績予想の変更は行いません。

引き続き、4月に発表いたしました目標達成に向け、各事業の戦略に取り組んでまいります。

<国内たばこ事業>

Q:2013年3月期第1四半期決算の概要は。

A:国内たばこ事業は前年の4-6月期に震災の影響を大きく受けていたため、その反動により全ての指標で大幅に増加しています。

販売数量は、震災の影響による前年の4月10日までの一時出荷停止と、その後、銘柄数・出荷数を制限した供給体制を取っていた影響から、前年の水準が著しく低くなっており、対前年同期では+59.5%と大きく増加し、294億本となりました。自社たばこ製品売上収益は販売数量の増加により+59.2%の増収となりました。調整後EBITDAは、販売数量の増加に加えて、前年同期にあった震災損失計上が今年はないことによる増益要因が、費用増の影響を上回り+108.5%の増益となりました。なお、4-6月期の費用は、対前年同期で増加しておりますが、これは、供給制限を行っていた前年同期には販売促進活動を控えていたことに加え、今期はシェア回復および更なるブランド・エクイティ強化のための投資を積極的に行ったことによるものです。

<海外たばこ事業>

Q:2013年3月期第1四半期決算の概要は。

A:海外たばこ事業の2012年1-3月期の調整後EBITDAは、単価上昇効果とGFBを中心とした販売数量の増加により、為替一定ベースで対前年同期+21.4%と大きく成長しました。

一方、為替影響を含む財務報告ベースでは、ほぼ全ての主要通貨がドルに対して不利に動いたため為替のマイナス影響を受けたものの、トップライン成長が好調なことから、+11.8%成長となりました。

Q:2012年4-6月期の販売動向は。

A:GFB販売数量は、CIS+を中心に力強い成長を継続させているWinston、LDが牽引し、対前年同期+5.2%成長となりました。

Winston、LDは、スーパースリムやXS等の革新的な製品形態、新しいパッケージ形態の製品投入、既存製品パッケージのリニューアル等のイノベーションが奏功し、それぞれ+8.4%、+13.6%と大きく成長しました。また、地理的にみれば、ロシアを中心にCIS+地域で目覚ましく伸長しています。

総販売数量は、特に欧州の様々な市場で総需要減少があるものの、GFB成長、市場シェア拡大等により成長し、スーダンにおけるM&Aを除いたベースで+1.5%成長、スーダンにおけるM&Aを含めると+2.8%成長となりました。